

本学の教員と学生が、 アダプテッド・スポーツの普及に 携わっています。

近年注目を集める、 アダプテッド・スポーツとは？

世界中の感動を呼び、ますます期待が高まっている、パラスポーツ(障がい者スポーツ)。それと同じようで少し違う言葉に、アダプテッド・スポーツがあります。訳すと、“適応させたスポーツ”。人に合わせて、ルールや用具、スポーツ自体を適応させるという、一般的なスポーツとは逆の考え方です。

たとえば、ブラインドサッカーの場合。視力に障がいのある方々もサッカーを楽しめるよう、鈴が入ったボールを使います。さらに、視力を問わず、誰もが平等に参加できるよう、アイマスクの着用がルールとなっています。

つまり、アダプテッド・スポーツとは、障がいのある方々はもちろん、子どもや高齢者、スポーツの苦手な方々まで、すべての人が楽しめるように工夫されたスポーツのことです。

本学の近藤尚也助教が 学生ボランティアの場を創出。

看護福祉学部臨床福祉学科の近藤尚也助教は、社会福祉士・介護福祉士としての豊富な臨床経験を持つ、障がい者支援のスペシャリスト。日本アダプテッド体育・スポーツ研究会、北海道アダプテッド・スポーツ研究会などに所属し、様々な臨床・研究活動を展開しています。さらに、障がい者スポーツ学生ネットワークという団



「ガチバラ! Vol.11 in 当別」では、本学の学生がボランティアとして参加。写真中央はウィルチェアラグビー日本代表の池崎大輔選手。



地域住民の方々実際に競技を体験。上は車いすテニス、下はボッチャの様子。

体も立ち上げ、大学や学部学科を越えた学生同士の交流をサポート。近藤助教のもとには、アダプテッド・スポーツの関連イベントにボランティア参加を希望する本学学生が集まっています。

2019年3月17日(日)、西当別コミュニティセンターで開催された「ガチバラ! Vol.11 in 当別」でも、多くの学生が活躍しました。近藤助教が実行委員を務め、本学も後援した同イベントでは、開催当日はもちろん、事前準備の段階から学生が参加。「学生は、各所への後援依頼などにも同行しました。当日のサポートはもちろん、一連のイベント企画や運営の流れを経験することで、福祉専門職として必要な力を身につけてもらうためです」と近藤助教は語ります。

ボランティア参加した学生は、イベント当日もウィルチェアラグビー、車いすテニス、ボッチャなどのスポーツに触れ、アダプテッド・スポーツや障がいそのものに対する理解を深めました。

アダプテッド・スポーツに 興味のある学生をサポート。

各種イベントへの参加を通して、アダプテッド・スポーツに対する本学学生の興味・関心は高まっています。中には、自主的な普及活動をスタートさせた学生もいます。

活動開始にあたって、学生から相談を受けた近藤助教は、「ボランティアの募集告知やスポーツ情報などを学生同士で発信・シェアできる環境は、まだ十分とはいえません。そんな中、アダプテッド・スポーツ関連の情報にアクセスできるウェブサイトを開きたいということで、コンテンツ制作などに協力しています」。その活動をサポートする体制づくりを進めていくといいます。

今後本学は、多くの学生が保健・医療・福祉の実際のフィールドで経験を積めるよう、様々な機会を提供していきます。



臨床福祉学科の近藤尚也助教。重度障がい児・障がい者の身体活動と日常生活および余暇活動の支援を主な研究テーマとして、アダプテッド・スポーツの普及活動に携わっている。

臨床福祉学科の学生が ウェブサイト「pepupo」を開設。

看護福祉学部臨床福祉学科2年の菊地莉子さんは、イベントで出会った他大学の学生とともに、アダプテッド・スポーツの普及活動を行うウェブサイト「pepupo(ペブポ)」(<https://pepupo.jimdosite.com/>)を開設。アダプテッド・スポーツや障がいに対する理解を深めてもらうための活動を行っています。



「pepupo」の告知ポスター。インスタグラムのアカウント(@pepupo2019)でも情報を発信。



「pepupo(ペブポ)」を立ち上げた、臨床福祉学科の菊地莉子さん(写真左)。